

「家がいいね」 第44号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008.1.7

大気の底に生きる

それが私たち人間と言う生物だと気が付くのは空を見上げている時しかない。水面の波のような雲を見上げる時、遙かに深いこの「空底」を実感する。大地に寝転び仰げば空に吸われるその心と表現した詩人もいた。

岐阜県生まれの私が、なぜ三重県にそれも伊勢に根を下ろす事になったのか、それはこの空を自然に見渡せる景色に意味があったのかもしれないと、今にして思い当たる。

奥美濃の長良川の水は確かに澄んでいたが、空は山で楔型に区切られ、谷底に住む生活はあまりにも人間の密度と付き合いが濃すぎた。見晴らしのきく山の上に、城は在っても住む人などは無かった。

普通に歩く目の高さに雲が入ってくる景色は好いものだ。小さな自分、大いなるものに包まれている自分がわかる。宇宙船「地球号」の存在と共同責任が信じられるのはこんな時だ。

大事なのに出来ない「待つこと」

今は、直ぐ答えを求め、待てない社会だと言われる。問題を抱えて生きて行く事を嫌う社会は、お金で誰かに任せる便利な「外注化」に走る社会でもある。

さて、点火した直ぐの薪では餅は焼けない。炭火が出来てからと思うが待てない。私も慌てて網を出した一人だった。



在宅ケアの自主上映会+懇談会

伊勢市での「一人暮らし・二人暮らし」の基盤はどうなっているのか、考えて見ましよう。

日時 平成20年1月27日(日)

伊勢市生涯学習センター「いせトピア」ホール

当日入場料 千円(前売り700円)

上映会「終わりよければすべてよし」

第1回 14時～16時10分

第2回 18時～20時10分

在宅ケア懇談会「地域で最期まで暮らすには」

第1回 16時10分～17時

第2回 20時10分～21時

実行委員会 1月17日(木) 19時～20時

いせトピア2階 第2学習室 で開きます

準備運営から出来る形で、ご参加ください。

チケットは、当クリニックでも扱います。

尊厳死に尊厳はあるのか

私は「終末期」という言葉が嫌いです。人生の一大事が成就し命が繋がる大切な時間に、この医学用語を当て嵌める必要があるのかと思います。

同じく「尊厳」は生きていく中で守られるもので、死に方の形に尊厳があるわけではありません。

尊厳死協会は「尊厳死の法制化」にその活動を集約しようとしています。ホスピス緩和ケアの理念と異質の運動のように思えます。治療が出来ないのだから2週間以内に退院しなさいと言う医者や居る中、「役に立たない者と思わせ」、「死ぬ理由を正当化して」尊厳死に誘導するなど是在ってはないと思います。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>